

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175900075		
法人名	有限会社長建寄り逢い長崎		
事業所名	グループホーム 夕張汽笛が聞こえる		
所在地	夕張市本町4丁目45		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0175900075-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0175900075-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夕張で民間法人の第一号としてGHを開設した平成14年から今年で14年経過した。昨年より再度スタッフに認知症の最新の情報と今からどう対処していくかを、ミーティング伝達で再教育することにした。書き入れ書類も、専門用語から、出来るだけ家族にも分かりやすく書き入れる事の指導をする様に改めた。介護の基本的目標はスタッフが入居者と触れ合いをしているのか？であり、いかに信頼が重要な事を常に指導している。長崎のGH火災で長崎市で月一回と条例化された事を参考に火災避難訓練を消防署への火災通報ボタンを押す訓練を取り入れ「月2回夜間及び日中を実行している。さらに入居者が緊急事態の際に救急車を要請する際に、スタッフがパニックにならない為に、月1回の救急車要請訓練を実行している。今回念願の簡易スプリンクラーの設置を完了し、火災の際に消防隊が来るまでの火元への放水で大火を防げる事が出来る等で、スタッフの心理的な負担を和らげる事と、入居者の命を守る事が出来る事に一番の安心を得る事が出来た。入浴も嫌がる方が多くなった。数年前から足湯を取り入れて入浴しない方へは足湯をすることにした。身寄りの無い、無縁の方が数人入居されている為に身元引き受け人は総括施設長江口孝則となっている。前年度と今年度に数名の方が、無縁の方が鬼籍に入られた。ホームは開設以来、身寄りの無い方が多数亡くなった。ホームにはそのような方のお骨が施設長室に納骨されている。「人は、誰でも死へと向かう」のだが、当ホームで過ごした方は我々家族の一員として代理家族とし無縁であろうとも、本人が一人の野辺の送りでない。そんな最期にしてあげたいと思う事を、開設以来実行している。まだまだ14年経過しても、反省すべき事が多すぎるし、まだまだ介護施設として未完成と思われる事もあり、更なる努力が必要と思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

夕張市本町の市役所の程近くに、病院を改装型の開設15年を迎える1ユニット(定員:9名)のグループホームです。  
経営者は、財政破たんして人口流出が止まらない夕張市に九州の長崎市より移り住み、夕張市に初めて認知症専門の福祉施設であるグループホームを開設して、行政機関や民生委員等と協力しながら身寄りの無い人や地域の独居の高齢者等の困難事例等への対応等を行っていたり、ターミナルケアの実践や葬儀、納骨まで職員と共に本人本位の支援を実践している。また、商工会議所や交通安全指導員、夕張神社の会員や役職を引き受けるなど地域の人々と協力しながら地域貢献に取り組んでいる。緊急時の対策では、防火管理者講習の受講や地域の災害訓練への参加、スプリンクラーの設置や月2回の火災通報訓練等を実施して、火災避難訓練を実施している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>尊厳についての言葉使いにおいて、「ユマニチュード」という、介護に関する言葉が、最近盛んに言われています。その人の「人間らしさ」を、尊厳し続ける状況こそが、「ユマニチュード」の状態であると定義したのがその意味です。</p> <p>「さまざまな機能が低下して、他者に依存しなければならない状況になったとしても、最期の日(ひ)まで、尊厳をもって暮らし、その生涯(しょうがい)を通して「人間らしい」存在であり続けることを支えるために、介護ケアを行う。人々が、ケアの対象者に「あなたのことを、私は大切に思っています」と、いう、メッセージを常に発信する」つまり、その人の「人間らしさ」を、尊厳し続ける状況こそが、我々の理念の原点です。「見る」「話す」「触れる」「立つ」に関しての技法「人とは何か」「ケアをする人とは何か」など、介護者の関わり方を、実践技術を再度自己満足しないで、見直すことにしました。まだまだです。理念の再確認が必要と思います。</p>	事業所の独自の理念を見易い場所に掲示していると共に全ての職員全員が理解できるように経営者及び管理者が伝達して、その理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>総括施設長江口孝則が地域の消防団員となる。商工会議所の理事、老人会の会員、夕張神社の会員、更に数年前までは、夕張市民の為に、旧夕張市所有の公衆便所を有料で4年間開放した歴史もあるなど、地域への貢献の歴史があり、確実に地域の活動への参加や地元の人々との交流に努め、地域の一員として地元の人と交流している。今後も介護業務で地域へ出来ることに取り組んでいる。</p>	地域の消防団員や交通安全指導員、警察友の会会員や商工会議所の理事などの地域の役職を引き受けて地元への協力や住民との交流・連携に努めている。また、民生委員や行政機関等と一緒に困難事例への対応や相談へも積極的に協力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>地域のホームとして、いろいろな地元での行事参加により、認知症のみでなく、高齢者への対応や身体障害者の対応についても相談が持ち込まれる。民生委員の会議にも、講演を話を持ち込まれ、今後も地域の方々が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに向け掛けている。</p>			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>定期的な地域運営推進会議を確実に実施し、町内代表や、民生委員、利用者、家族、法人代表者及び管理者スタッフで構成し、会議は2ヶ月に1回、年6回を実施する事とされているが、まだ年に3回～4回に留まる。推進会議の時は入居者の身体的、精神的な状態を、写真で示して、報告など詳しく写真を使い説明している。また参加者委員の意見を、常に謙虚に聞き当ホームの介護サービス向上に役立たせている</p>	町内会役員、行政職員、包括支援センター、民生委員、家族等が参加して、日常生活の様子や事業所の取り組み内容等の具体的内容について話し合い、そこでの意見等をサービス向上に活かしている。	今後は、年6回を目安に定期的に開催できるように内部で検討しているので、その実践に期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>市役所が町内にあり、市担当者及び包括支援センター職員と、何かあれば連絡があり連携を充分にとりサービスの質の向上に努めている。市の主催の講習会なども積極的に参加し、市の職員とも、協力体制を築いている。</p>	市町村担当者や地域包括支援センター職員とは、日常業務や地域の実情について情報交換して、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>開設以来身体拘束の基準的な考え以前に家庭は鍵をしないと言う考えで玄関などの施錠は禁止し自由に気軽に立ち寄れることが出来るよう努めていた。しかし認知症家族への交通機関での事故の裁判で介護者に全責任が問われ賠償金問題27年3月1日の最高裁の判決では「とりあえず」この家族には無罪となった。しかし判決内容は、能力のある場合は賠償金支払いの判決が出る事も想定される内容であった。玄関に施錠をしている事があれば身体拘束と問われてもホームを維持管理経営する立場から見ると「施錠しないホーム」を理念としている事を180度考えを変え施錠する事にした。グループホームは家庭の続き等と言われるが、現在の家庭では施錠しない家庭があるだろうか？。小学校でも不審者の出入りを予防する為に、施錠している現代がある。玄関を「施錠しない」事が「身体拘束をしている」といえるのか？疑問となっている。「身体拘束」と言う意味が、時代に沿っているだろうか？と、思う。</p>	事例研究やミーティング等を通じて指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	<p>平成24年1月26日に、他県での関連の講習会に参加し、基本的考えを再度学ぶ。当然、尊厳を持っていれば理解できる様に、いかなる虐待を見逃さないよう、スタッフなどにも徹底した虐待防止の指導及び管理を実行している。入浴介助の際にも裸体で身体に虐待形跡が無いかのチェックを常に持っている。高齢者への虐待など「絶対に見逃さず」という姿勢がホームの精神である。理念として「絶対」はこのホームは、虐待は許さない。見逃さない。見ぬふりをしない」</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つべきだが、ホームとして長年に渡り実際に利用された結果は、この制度への理解は使用された側からはこの制度内容には疑問が残る。何故なら、この制度は管理者、対象者死亡時点で契約解除となる。人はいずれは死に向かうのだから、身寄りが無い、無縁の者へは、それ以降の儀式等も、ホームが行う事が、この制度を利用する者は、必然的にあるはずであるのに、あまりにも無責任な制度と思わざるを得ない。とてもこんな制度を入居者の日常生活自立支援事業や成年後見制度について利用している為に理解させようとは思わない。それらを活用できるよう支援しているか？。については、介護保険課に携わる者でも、疑問視をしているとの、発言も会議などである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の改定時などは、事前に手紙などを郵送し家族等に説明している。不安や疑問点があれば、いつでも十分な説明を時間を掛けて行なう事も、家族等に説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームの利用者と家族からは、運営に関する意見は、長年無いが、仮に意見が出た時点では、毎日のスタッフへのミーティング伝達し、報告を行い、スタッフの前で隠さず実行する事になっている。今後も利用者の状態変化時の連絡や健康面での相談を話し合い家族の意見なども運営に反映している常日頃において、管理者・ケアマネを含めスタッフは、家族の訪問時など日常の様子を報告を、日常的に行っているし、病院受診などの報告も行っている。ただ、必要以上に心配かけてはいけない事もあり、家族へは、日常の事を参考にし、家族に精神的負担を掛けない言葉で、分かり易く説明する事を心掛けている。。	家族等が苦情や意見等を言い表せるように苦情受付担当窓口を設置しており、来訪時等には、日常生活の様子や健康状態等を話し合い、そこで意見をミーティングで話し合い、運営に反映できるように努めている。また、身よりの無い方にも本人に寄り添った支援に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者に対する対応など、スタッフの提案が多くなって来ている。毎日のミーティング会議の伝達と、別に、勤務後にスタッフと、いろんな意見を聞くこととして、提案があれば出来るだけ、取り入れる事になっている。誰もが、言いやすい環境と、取り組んでいる。	ミーティングや日常業務の中で職員の意見・要望・提案などを話し合う機会を設け、そこでの意見等を運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努める事によって、ホームのレベルアップに努める様に「最善」の努力をする事になっているが、現時点で給料を見直しについて、国保から今年度に介護報酬が3%減額された事により、世間より10万円も低いと言われていた給料を見直すことも出来ないのが現状で、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めているためには、現時点では無理と思われる。給与の見直しなどは、年間を通して、経営者として考えているつもりである		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でケアにおける、その者の能力と力量に応じた実務での優しい言葉での指導が必要である為に、介護に関する資料や講演会での新しい情報を毎日のミーティング伝達用紙に、書き入れて学ばせる事を常に行っている。例えば「ユマニチュード」の状態であると定義したのがその意味で、入居者が「さまざまな機能が低下して、他者に依存しなければならない状況になっただとしても、最期の日(ひ)まで、尊厳をもって暮らし、その生涯(よ)がいがいを通して「人間らしい」存在であり続けることを支えるために、介護ケアを行う、スタッフを育てる意味でも必要とする為に、現場での体験を参考にして学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者として同業者との付き合い交流はあるが、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、現在は全く無い。ホームで勤務する者の余裕が無い為に、このような時間が設けられない事は残念である。不足していると感じている。見学については開設当時よりホームのいつでも受け入れる体制であり他の業者からの入口の扉は開けている。ネットワークづくり等、近年は講習会等の機会と同業者と情報交換をしているのが現状である。現在は医療機関などと情報交換しケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やスタッフが、日頃の介護等で信頼を得て、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。利用者の話をじっくり聞き、そばに付き添い入居者との信頼関係が築くよう努力している。当ホームの入居者は、自分の意志をはっきりと示す為に、本人の安心を確保する様な関係づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	代表者の考え方としての指導は、サービスを導入する段階で、最初に「家族がどんなことで困っているのか？」を聞く事において、まだ不満足を感じる様に思っている。今後も出来る限り、耳を傾けるという思いを持つこととしている。また「利用料など金銭面など」に関しても、出来る限り要望に答えるよう支援している。当ホームは、家族の居ない、無縁の方が入居されているが、家族と同じ思いで、また人としての最期を安心して迎えられる事への、事業所として出来る限りの努力を行っている。ホームには長年在籍されている入居者がいる。その為に入居者に対しては、理念に掲げている「代理家族」としての付き合いが続いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、何が一番必要としているのか？を、見極め、安心した生活を送れるように、介護しながら観察し入居者の身体状況と「出来る事。出来ない事」とまた、サービス導入時期に際の、精神状態を見定め、支援している。が、「その他のサービス利用も含めた対応」に努める事も、必要であるが、現在実行して無いのが現状である			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかずについて、ホームの「理念」にあけている通りであり、利用者の尊厳を尊重しながら支えあう、信頼できる家族同様の関係を築いている。介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係、それがグループホーム本質である。我々の「自己満足かも知れないと、自問自答しながら、うぬぼれる事なく」を、最善を尽くす事が、今後の我々の課題と思っている。と、受け止めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの理念は「家族の関係を常に基本として、職員にも本人と家族の絆を大切にしながら支える」考えは築いている。また親類や家族がいても見放されて居る者、無縁の者など、家族の支援はいろんな例があるが、共に支えて行き事については、スタッフは常に「代理家族の思い、家庭という立場」で、出来る限りの努力を行っている。それは常に「押し付けで無い」考えで努力する。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係の扉の扉を閉じる事なく、支援して行く事を努力している。いつ何時でも事前の予約無くとも訪問されて来た場合などホームでは受け入れている。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、最大限の支援に努めている。	地域の行事参加や友人知人の訪問支援などで馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身寄りが無い方が大勢入居されている関係で、入居者同士で助け合う心は、認知症であろうとも、忘れずに続いている。ホーム内で、日中そばに居る入居者同士が、手を握っている姿、握られている方も安心して笑顔を見て、胸を打たれる事もある。またホーム内で知り合った人同士でも、昔からの親友である様ないたわり方を見ると「一人一人が孤独を味う事が無い」ホームが理想であり、スタッフの入居者への思いやりが、入居者にも伝わっている様な気がしている。その為の支援は続けている			
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、当ホームとは関係なく、途切れる事が多い。心配はしているが現実には情報は個人情報保護として、流れてこないのが現状である。			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握し、趣味への支援などを本人本位に検討する様に努めている。ただ理想と現実には難しい事が多い。室内への持ち込み家具等で希望を把握している事もある。	生活歴の把握や個々のアセスメントで一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努めて、本人本位の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	分かる範囲で入居者の一人一人のバックグラウンドを調べる事で、これまでの経過を把握する事になっている。また日頃の会話で経過バックグラウンドを知りその人らしく暮らせるよう出来る限り努力して支援しているつもりであるが、認知症で本人の記憶もはっきりしない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方の把握は、個人日誌などで行っている。毎日の様子を元に心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方についてスタッフなどの意見を取り入れている。本人、家族、必要な関係者と話し合いを行い、希望を取り入れている。本人の意向は聞き事になっているが、今の暮らしで満足といわれている。	本人・家族の意見や要望、職員の意見・アイデアを採り入れて、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には、都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に個人日誌などで記録し、スタッフ一人ひとりの入居者への様子や興味などを記入している。介護計画の見直しに活かす事で、介護計画書の見直しに役にたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化については、当ホームは取り組みがまだしていないため、今後の課題となる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、日々の楽しい生活を送れるよう支援しているが、地域資源を把握してはいない為、当グループホームとして、認知症の入居者へどのような支援が出来るのか？を検討課題としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	5年前頃より、理想とする在宅医療として医療連携が成立した。「1人の掛かりつけ医師の支援」を、毎週受け続けている。常に柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む様に努力している。今も定期的にかかりつけ医のホームへ定期的に診療に来訪されている為、適切な医療を受けられるように支援されている。かかりつけ医師は、入居者の健康状態を把握している為、急変時などは、24時間かかりつけ医師に報告する事の連携がある為、スタッフが安心して相談できる体制になっている。また、協力病院に依頼など、適切な医療を受けられるように、自慢出来るホームではないが、かかりつけの医療医師との関係で、万全な体制で入居者への支援を行なっている。	医師の往診や緊急時の通院支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人・家族等が納得したかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療加算の手続きはしていない。かかりつけの医師がその代わりにされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1人のかかりつけ医が、常に定期的に診療に来訪されている為、緊急の際には適切な医療を受けられるように支援される様に、病院関係者との連絡がスムーズに行われている。病状悪化の場合は、協力病院や医療設備の整った病院への入院で適切な医療を受けられるよう、かかりつけの医師と病院との医師連携関係で、万全な体制で入居者への支援を行なっている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行う事を、行う様になっている。看取りに関して契約書に明記し、家族に同意書もいただき、職員にもホームの方針を説明している。また身寄りが無い入居者に関しては、事業所として開設者である江口孝則総括施設長の考え方として「人がいずれ死と向かう事として、その最期を出来る限り我々は、人として、誠意を当然のごく行うことを当ホームでの基本理念」としている。無縁の方が年間に数名、死去されているが、ホームの会議室に仏壇を設置し、定期的に住職より読経をいただいている。平成12年4月1日開設から15年間の歴史でもホーム入居者がグループホームとは最期までの介護が当然であるべきであるとしている。	行政機関や民生委員等と協力しながら身寄りの無い人や地域の独居の高齢者等の困難事例等への対応等を行っていたり、ターミナルケアの実践や葬儀、納骨まで職員と共に本人本位の支援を実践している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月2回、入居者緊急事態の対応法を訓練し、初期対応がスムーズに行えるよう常に訓練している。車いす車への、対応も月初めに訓練し、事故が無い様に務めている。入居者の病状にあった緊急対応の訓練と、知恵を今後も、資料等を示して学ぶ事を今後の課題とスタッフと話している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	当ホームはスプリンクラーを設置していない為に、火災が起きると大事故になる事を想定し、肩身の狭い心境であったが、2年前に簡易スプリンクラーとも建築物の防火建築物への改修を、関係所管と銀行より借入し、完成となった。ただ火災が発生した時の、初期消火が重要であり、そのために職員に火災訓練と入居者の避難訓練の方法を徹底させる為、実際に、火災想定し、実際に火災通報ボタンを押す。という、訓練をしている。過去のグループホームの火災では、通報ボタンを押さない事で、消防車の消火が遅れたとの事であり、事前に消防署に連絡して、火災通報ボタンを押す訓練を、必ず実施している。また特別訓練として、1ヶ月に2回は夜間訓練、日中火災訓練を実施している。現在でも、夜間の想定訓練を日中にするのではなく、実際に夜間に、夜勤スタッフが行なう訓練を他のスタッフが見学して、感想と意見書を提出して、次の自分の担当する時に参考にすることをさせている。入居者も訓練には理解し協力的である。。施設長以下2名の甲種防火管理者講習を受け、地域の火災・避難訓練や地域の災害訓練に参加し日頃より実技を行っている。また江口孝則総括施設長は旧出張消防団員でもある。	緊急時の対策では、防火管理者講習の受講や地域の災害訓練への参加、スプリンクラーの設置や月2回の火災通報訓練等を実施して、火災避難訓練を実施している。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、スタッフへ新人研修で一人ひとりの人格を尊重し、人としての誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮した言葉かけを行う事を社内教育している。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉や対応にならないよう社内教育で啓発している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、利用者の希望や思いを把握して一人ひとりのペースを大切にしているし、自己決定できるように働きかけている。「わがままが言える」「玉には入居者同士の口喧嘩もある」「自由に言える」については、それもありがたい事であるかも知れないと思っている。江口孝則総括施設長等は、家庭内で常に言われている為に、馴れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、利用者の希望に出来る限りそって支援している。が、身体を動かない事があるため、毎日時間を決めてスタッフと触れ合い活動で変化のある日常の暮らしとしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性に合わせ、その人らしくおしゃれが出来るよう取り組んでいる。散髪やパーマも、専門の美容室や理容室が来訪して行っている。衣服も個人の意志を尊重して自由にもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう好みなどを取り入れ、栄養バランスにも気を使っている。が入居者の希望より、スタッフの食べたい希望を取り入れる為、スタッフが食べ過ぎる傾向になり、年々⓪⓱の様になりつつある。一週間に2日は利用者と職員と一緒に食事作りをしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、週2回利用者と職員と一緒に買い物に行ったり、調理の準備や食事をしている。また、10時と3時のおやつにはイモなど手作りのものを中心に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームはスタッフの手作りで献立作りを行っている。食べる量や栄養バランス、水分量、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をし、個人に応じた食事量と1日の水分量などを日々の記録に明記している。一年中、生野菜だけは摂取が基本としている。料理の「味において」は「マアマア」と思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的にご誤の恐れもあるために、夜食後に口腔ケアは行う。また本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。かかりつけの歯科医がホームに来て、指導をされている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的時間的にでなく、一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援する事により、一人一人の失禁を出来る限り少なくなるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にホーム内でのレンレーションで、無理のない体操などの運動を行い、便秘予防に努めている。毎日便の状態を詳しく(色、堅い柔らかい?回数)排尿も色、回数の確認をしている。便秘の理由も原因等をスタッフのミーティング出報告などをして、一人一人の様子を把握することに、指示をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴は月水金の週3回としているが、冬季は2回としている。状況に応じて入浴出来ない者へは「足湯」を行っているが、足湯の設置をする事になってから数年たつが、足湯が入居者の楽しみになっている。入浴は一人ひとりの希望に沿った湯の温度に設定している。入居者には2時間入浴する男性がいる。意味の分からない歌を歌っている	足浴を採り入れたり、週2~3回の入浴を目安に本人の希望やタイミングに合わせて支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な生活が出来る事が当ホームの特徴であるため、休憩したり安心して休まれるよう一人ひとりにあつた生活環境を最善の提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後内服薬の確認をし、副作用などの変化に注意し用法などの理解をしている。ミーティングで説明等をしている。間違つた服薬がスタッフにも無い様にと、入居者の薬を一人一人分かりやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から趣味や生活歴を、なにげなく聞き出し、その過去を思い出したりした、生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、の会話等で、楽しみごとにつながるよう支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によっては、散歩などを行い季節の行事を企画し、春には花見などを、行事の中に取り入れ、外出の機会を多くしている。入居者も高齢になり、夏に外出支援の為屋外に出掛けたが、熱中症の症状が出た為、控えた事もある。家族と外出する要請にも、すべて支援している。	冬期間には、感染症等や事故防止に配慮して室内のレクリエーションの充実を図っていたり、季節に合わせた行事の企画をして外出の機会を作っている。また、散歩や買い物、地域のお祭りや映画祭などの行事にも参加できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は一人ひとりに応じた金銭管理をしていたが、お金の使用時の支援をしている事は、現在は行っていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者は、過去は電話など自由に利用した方もいたが死亡された後は電話かける人はいない。過去に手紙については受け取りや投函が自由であり投函困難の方はスタッフのほうで投函したが、今の入居者は意思がない。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように常に配慮している、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように常に配慮している、リビングなど、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、椅子やソファが配置され、生活感や季節感を採り入れながら本人が居心地良く過ごせる工夫がなされている。また、大きなガラス窓があり、正面に見える山の本木により季節感が感じられる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	古家を改築して家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう支援している。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。入居者同士のトラブルも無い。一人になりたい時は自由に居室へ戻ることへの理解をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごしてもらえよう工夫している。何が駄目は「火の始末」だけで、その他はすべて使い慣れた物の持ち込みは了解している。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考えながら、出来る限り、入居者にとっては「分かりやすい事をも目的とした表示」を付けたらして、一人ひとりに合った生活環境を整えている。			

### 目標達成計画

事業所名 グループホーム 夕張汽笛が聞こえる

作成日: 平成 28年 4月 13日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催が年6回できていない。	運営推進会議を2カ月毎に定期的に開催していく。	年間の予定を計画して、地域の委員の人達の協力を得ていく。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。